

2022 年度 中国残留邦人への理解を深める集い 『中国残留日本人孤児』の歴史を語りつぐために
神戸市主催、中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会委託
2022 年 11 月 23 日開催

あいさつ

浅野慎一(中国「残留日本人孤児」を支援する
兵庫の会代表世話人)

本日は「中国残留邦人への理解を深める集い」に御参加くださり、ありがとうございます。

この集いが、残留邦人についての理解を深め、問題解決に向けた一つの機会となりますことを切に祈念しております。

さて、今回の集いは、いくつかの点で、例年以上に大きな意義をもつように思われます。

まず第 1 に、残留邦人の問題やその解決の取り組みが、新たな局面を迎えている中での開催だということです。残留邦人一世の高齢化が進み、医療や介護の問題がますます深刻化しています。しかし日本語教室や交流事業に参加できない一世が増え、そうした問題は見えづらくなっています。同時に他方で、二世問題がかつてないほど注目を集め、全国規模での署名や国会請願の活動が起こっています。メディアでも、二世の問題がしばしば注目されています。一世から二世へ、世代を越えて受け継がれつつある残留邦人・中国帰国者問題について、私たちは改めて学び、考えるべき時期にさしかかっていると思われます。

第 2 に、神戸市の「理解を深める集い」は、3 年ぶりの開催です。コロナ禍によって 2019 年以来、中断を余儀なくされてきました。コロナ禍では、日本語教室や交流事業、帰国者の皆さんの日常の交流、そして二世を中心とする仕事・経済基盤も、大きな打撃を被りました。今回、私たちはこの「集い」を再開できたことを喜びあうとともに、コロナ禍が中国帰国者の生活にもたらした様々な影響を正確に把握し、今後の支援・交流活動に生かしていく必要があると思います。もちろんコロナ禍は、まだ完全に収束していません。本日も十分に気をつけてくださいますよう、お願い致します。

そして第 3 に、今年は日中国交正常化・50 周年でもあります。現在、日中間には多くの政治的問題があります。しかし残留邦人・中国帰国者の多くは、まさにその人生をふまえて、平和の大切さを心に刻み、国家の政治的思惑に左右されない民衆による日中友好の促進を望んでおられます。同じ家族の中に、日中両方の国籍の方がいる帰国者も多いです。中国帰国者の日本での尊厳ある生活は、日中の平和・友好の基礎の上に初めて成り立ちます。そしてそうした基礎は、帰国者以外の日本に住む私たち市民やその子供・孫の世代にとっても大切なものだと思います。

こうした多くの観点から、本日の「集い」が、例年にもまして有意義なものとなることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。